

みらい図書だより

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL：03-5813-2540 (内線 1202) FAX：03-5813-2529
URL：http://www.tokyoumirai.ac.jp//library/ 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

こども保育・教育専攻 副専攻長 白石 雅 紀

図書館と私を振り返ってみると、まず思い返すのは小学校4年生の時に、クラスで学校の図書室に泊まったことです。当時私は親の仕事の関係で、アメリカのアリゾナ州、ツーソンというサボテンとロードランナー（ルーニー・テューンズのキャラクターとして私の中では有名です）ばかりの田舎町に暮らしていました。時期は忘れてしまいましたが、「学校の図書室に寝袋と本を持ち寄って、一晩本を読みあかそう」的な行事だったと思います。私は確か、当時日本にいる祖父母から送ってもらっていた「斉藤洋」の本や、「那須正幹」の『ズッコケ三人組』あたりを持ち込んで、深夜まで薄明かりの中、寝袋にくるまりながら読んでいた記憶があります。これが図書館と私の一番古い記憶です。

次に覚えているのは中学時代です。日本に帰国し、東京の練馬で中学生をしていた私は、漫画だからと言うしょうもない理由で、当時の図書室にあった中沢啓治の『はだしのゲン』全10巻を読みました。思えば、私個人で本を図書室から借りたのは『はだしのゲン』が初めてかも知れません。この本を未読の方がいるのであれば、今すぐには言いませんが、今年度中に一読されることを強くオススメします。私は『はだしのゲン』を読むまで、原子

爆弾のことは知ってはいましたが、強い威力の爆弾という程度の認識しかありませんでした。一瞬で、一発で多くの人の人生を奪い、また多くの人の人生を狂わす、核兵器の恐ろしさを私は『はだしのゲン』を通じて学びました。被爆直後の惨状や、被爆者差別の過酷さが全10巻を通じて、圧倒的なリアリティをもって描写されています。思わず目を背けたい場面も何度もありますが、全人類必読の書だと私は勝手に思っています。また、「漫画だから」という軽い気持ちで手に取った、当時の私の中にあつた漫画に対する偏見を打ち破ってくれた一冊でもあります。

なお、大分趣向は変わりますが、原子爆弾に関連する著作では、リチャード・ファインマンの『ご冗談でしょう、ファインマンさん』もオススメです。この本の主題は原子爆弾ではないのですが、原子爆弾開発の裏側が少しですが出てきます。リチャード・ファインマンはノーベル物理学賞を受賞した物理学の大家ですが、この本はエッセイなので物理学の知識がなくても気軽に読める本だと思います。ファインマンは1988年まで生きました。ファインマンは果たして『はだしのゲン』を読んだのか。私はずっと気になっています。



ベストセラーが生まれるとき

こども心理学部 学部長 出口 保 行

2022年8月にSB新書から出版した『犯罪心理学者が教える子どもを呪う言葉・救う言葉』は、発売当初からAmazonの書籍販売においてカテゴリー別売れ筋ランキング1位となることが多く、累計約10万冊を超えるベストセラー及びロングセラーとなっています。また、中国語、韓国語、ベトナム語にも翻訳されて広く海外でも出版されています。

講義のほかには学部長業務を担っておりますし、テレビや新聞等のマスコミ対応が年間300本程度、全国からの講演要請に応ずることも年間50本程度ありますから、なかなか書籍を執筆する時間を確保できないのが日常です。そんな中、今回の書籍については「ぜひ書いてみたい」という気持ちが高まりました。本書の企画に巡り合うまでは、一般書は書いたことがないので、ノウハウがまったくわからず、どのように何を書けばよいのか、イメージすらわからなかったのですが、企画を読んでまさに私が犯罪心理学者として社会に伝えたいことがそのまま目次になっていたため、今回書かなければもう書くことはないだろうと思い、一念発起して出版を決めました。

しかし、書き出してみると、一般の方に書き手の思いを伝えることの難しさに何度も頓挫しかけました。心理学のジャーナルで

あればだれでも知っている言葉が一般の方には通じない。ではどのように表現すればよいのか。何度も編集者の方やライターさんにお聞きしては先に進めるという状態で莫大な時間を要しました。ですから本が完成した時の充実感は今でも忘れません。発売日に東京駅の丸の内の大きな書店に行き、本書が置いてあったとき、それまでの疲れが飛んだように感じました。その後、各種メディアが積極的に取り上げてくださったこともあり、すぐにベストセラー No. 1 をとることができました。原稿作成に当たり苦しんだ分だけ、とても大きなご褒美をいただいたように思いました。

2023年8月には次作がリリースされました。『犯罪心理学者は見た危ない子育て（SB新書）』。前作は確証バイアスを中核とし、保護者ならば誰でも使う子どもに対する「よかれと思って」の声掛け（例えば頑張って早くしなさいなど）が最終的には子どもに重くのしかかり非行化してしまう事例を紹介しました。次作は保護者の子育てスタイルをサイモンスの4類型に基づいてタイプ分けし、それぞれが行き過ぎたとき非行や犯罪につながる事例を紹介しています。ぜひお手に取ってご覧ください。

絵本あわこね

幼少期好きだった絵本『おおきなおおきなおいも』

こども保育・教育専攻4年 南 侑那
「おおきな おおきな おいも」があったら、みなさんはどうしますか？

今の私であれば、焼き芋やスイートポテトなどおいものお菓子を作って、全部食べてしまうかもしれません。小さな頃からおいもが好きだった私は『おおきな おおきな おいも』という絵本がお気に入りでした。



『おおきなおおきなおいも』(赤羽末吉作・絵 福音館書店、1972)

『おおきな おおきな おいも』は、「もし、おおきな おおきな おいもがあったら…」と子どもたちが空想する絵本です。プールに浮かべて船にしたり、怪獣に見立てて遊んだり、最後は天ぷらや焼き芋、大学いもにして、おいもパーティをしたり…

子どもだった私にとって、子どもたちより遥かに大きいおいもはとても魅力的であり、おいもを使って遊んだり、料理を作ってみたり、お腹いっぱい食べたりする子どもたちが少しうらやましく、自分も体験しているような気持ちになれました。じっくり想像しながら読んだり、声に出して読んだりして何度も何度も読み返していた思い出の一冊です。

選書ツアー報告

今年の選書ツアーは、7月25日(火)、丸善・丸の内本店オアゾにて実施しました。午前の部(11:00~12:00)と午後の部(14:00~15:00)の2回にわけて行い、学生7名、教員5名、計12名が参加しました。それぞれが思い思いの本を真剣に選び、あっという間の1時間でした。参加した学生が選んでくれた本は絵本やコミック、ライトノベルをはじめ、歴史書や研究書、洋書と幅広いラインナップで、学生ならではの視点で選ばれています。今回、選書された書籍は、「選書ツアーコーナー」に



機材の説明をきく参加者
丸善・丸の内本店にて

配架されています。ぜひ、見にきてください。

ツアーに参加したモチベーション行動科学部の松永くんが感想を寄せてくれましたので、ご紹介します。

私の推し

モチベーション行動科学部3年

松永 秀太

私は先日、本学図書館主催の選書ツアーに参加し、論文講読、将来的には卒業研究に向けた文献の選書を行いました。日本有数の蔵書数を誇る丸善・丸の内本店において、このような機会を得られたことは、非常に貴重な経験となりました。

私は現在、モチベーション行動科学部の山崎ゼミに所属しており、日本史の中でも中近世移行期の歴史に関心を抱いています。現在3年生で、関心は多岐にわたりますが、とりわけ前近代社会で身分制が成立・展開することに関心があります。今回の選書ツアーでは、その点に関連する文献を多く選書しました。その中でも私が最も興味深いと感じた文献は、右図の通りです。中世史に関する文献ですが、これと近世史に関する文献を併せ、身分制の成立・展開に関する理解を深めていきたいと思っています。皆さんもご関心があれば、ぜひお勧めしたい一冊です。



『室町幕府の地方支配と地域権力』(市川裕士・著 戎光祥出版、2017)

おすすめの1冊

先生方おすすめの1冊を紹介します！

●大村美菜子先生(こども心理学部心理専攻)

『よみかかせえほん イソップ童話』成美堂出版(2019)

おすすめの1冊は、きっと皆さんも一度は耳にしたことがある「イソップ童話」です。毎晩、寝る前に子どもたちへ読み聞かせをするのが定番なのですが、イソップ童話は一つ一つの物語が短いにもかかわらず、その短い中に人生で役に立つことや様々な価値観が凝縮されており、我が子も大好きな本です。イソップ童話はフロイトの防衛機制の例えにも使われていますが、大人にも面白くハッとさせられることが多いのが魅力です。またこのイソップ童話は法政大学の心理学部の先生が監修されているため、最後に「この物語が伝えたいこと」というコラムがついています。こちらは完全に大人向けですが、うちの子たちはこちらの方により興味を抱いており、物語が伝えたいことを読み解いてくれるのはありがたいようです。昔読んだことがある人も、まだ読んだことがない人も、ぜひ手に取ってみてほしい一冊です。

●小林 祐一先生(こども心理学部こども保育・教育専攻)

『兎の眼』灰谷健次郎、理論社(1974)

学校や先生をテーマにした本や映画、ドラマ、漫画は、昔からたくさんあります。きっと、ほとんどの人が学校を経験しているため、受け入れやすいのだと思います。私は教職に関係する授業や教育実習を担当していますが、学生の皆さんにおすすめしたい一冊が『兎の眼』です。現在、多種多様な教育課題や教員の働き方改革など、学校現場は大きく変容しています。この本を読めば、教師と子どもたちの絆の原点に触れることができるでしょう。筆者の灰谷健次郎さんは、小説家になる前は小学校の先生でした。『兎の眼』が初めて世に出たのは1974年ですが、最近でも別の出版社から文庫本が販売されています。50年前の学校現場、どんな様子だったのか想像できますか。ぜひ、昭和の時代を味わってみてください。



著者に
聞いてみました。

新刊紹介

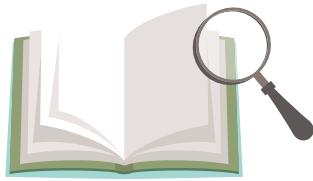
2023

山崎 善弘先生

(モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科)

『日本近世の国家・領土支配と地域社会』【単著】(塙書房、2023)

従来の近世地域社会論では、個別の地域社会の把握が進む一方、近世的地域社会とは何かといった一般化・普遍化に関する研究が皆無であることを問題視し、それらの両立を果たし、近世地域社会論の新たな展開を目指したのが本書です。意外にも海外の歴史学者や経済学者から評価いただき、共同研究を開始するなどして、更なる研究の深化を図っているところですよ。なお、本書は基本的に研究者対象の学術書ですが、授業科目「地域史論」と密接に関わる内容を含みます。学生の皆さんにもぜひ手に取ってもらえればと思っています。



小林 久美先生 (こども心理学部こども保育・教育専攻)

『小中学校家庭科の授業をつくる：5年間を見通すための理論・実践の基礎知識』【共著】(学術図書出版社、2023)

小学校の教員免許だけを取得する人は、各教科の内容をしっかりと理解していきますが、その内容が中学校に繋がっていくことを意識していない学生も多くいます。でも学習は学校段階で途切れているわけではないので、小学校でどこまで押さえておくかを考えることが、将来の先生にとって、とっても大切なことです。この本は、小学校5年生から始まる家庭科が中学校でどのように展開していくかを意識しながら初等家庭科を学べるようになっています。



● 埴田 健司先生 (モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科)

『仲直りの理 進化心理学から見た機能とメカニズム』大坪庸介、ちとせプレス (2021)

友人や恋人、家族など、親密な関係にある人とはうまく、そして仲良く付き合っていきたいものですが、ケンカやいざこざはどんなに注意していたとしても少なからず起こってしまうものです。そんな時、私たちは謝ったり、赦したりして仲直りしようします。この本はこうした仲直りについて、「どのようにすれば仲直りできるか」ではなく、「なぜ仲直りしようとするのか」という問いに、進化心理学の視点から答えようとしています。書中では、心理学のみならず、進化生物学や動物行動学の研究も取り上げられますが、初学者でも理解できるよう分かりやすく解説されています。読み終わると、仲直りの本質、さらには社会的動物たるヒトの本質も垣間見えてくる。そんな一冊です。



中澤 純一先生

(モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科)

『多文化教育の授業開発と実践—多様性の尊重と社会正義の実現をめざして—』【単著】(明石書店、2023)

中等学校(中学校・高等学校)の社会系教科及び総合的な学習(探究)の時間における多文化教育の単元開発と実践研究について執筆しました。開発した単元を実践にかけ、マジョリティとしての意識変革を促す上での有効性を検証し、多様性の尊重と社会正義の実現の視点から分析し再構築した単元を提案しています。教職を目指す方は、ぜひ一読ください。

横地早和子先生 (こども心理学部心理専攻)

『触発するアート・コミュニケーション』【共編著】(あいり出版、2023)

本書は「触発」をキーワードに、表現の創造を目指してデザインされた様々なアートのワークショップの実践例とその効果をまとめた書籍です。芸術等の創造活動には、アーティスト、芸術作品、鑑賞者の3者間に生じる「アート・コミュニケーション」が重要なカギとなります。それを引き起こすことを目指したワークショップでは、鑑賞のずらしや、アーティストのレクチャー、ダンス、音楽、テクノロジー等、「心理学×アート」による新たな試みがなされました。心理学とアートがどうタッグを組んだか、手に取ってみてください。

利根川智子先生、鳥海 弘子先生

(こども心理学部こども保育・教育専攻)

『保育実習—実習からの学びを広げ、深めるために』【共著】(萌文書林、2023)

本書は、保育者を目指す学生さん、そして学び続ける保育者にも役立つ構成と内容になっています。保育所での実習前に、保育実習の全体像や詳細を知ること、保育実習と現代社会における保育士の職務とのつながりと関係性などを理解しやすいように伝えています。学生さんへのおススメの読み方は、一度通読して保育実習の全体像を理解し、実習の段階に応じて読み返しながら細部を理解していく方法です。一緒に学んでいきましょう!

● 田中 翔先生 (エンロールメント・マネジメント局)

『わんわん にゃーにゃー』長新太/さく・え、和田誠/しあげ、福音館書店 (2008)

皆さんは胎教という言葉をご存知ですか?胎教とは妊娠中の赤ちゃんに、コミュニケーションを通じて心地よい環境を作っておくことです。我が家では胎教によく絵本を使っています。初めて我が子に向けて読んだ絵本が、この『わんわん にゃーにゃー』でした。1匹の犬と猫が近づき、猫が犬の口の中に入ってしまうというお話です。なんとセリフは、「わんわん」と「にゃーにゃー」のみ!当然お腹の中の赤ちゃんには絵は見えませんが、妻と2人で感情を込めたセリフだけで物語を表現します。犬役と猫役を交代したり、セリフの力加減を変えてみたり。一度たりとも同じ「わんわん」と「にゃーにゃー」はないのです。我が子が無事に産まれてきてくれたら、どうだった?と感想を聞いてみる予定です。



👑 電子書籍アクセスランキング (2023/1/1 ~ 8/31)

順位	書名／著者名、出版社、出版年	登録番号
1位	いじめ・虐待そして犯罪の深層—失われていく共感性—／町沢静夫、丸善出版、2007	e00000290
2位	週刊東洋経済 第7105号 (2023年4月8日)／東洋経済新報社、2023	ET0007105
2位	週刊東洋経済 第7112号 (2023年5月13日)「特大号」／東洋経済新報社、2023	ET0007112
2位	週刊東洋経済 第7110号 (2023年5月6日)「合併特大号」／東洋経済新報社、2023	ET0007110

👑 図書貸し出しランキング (2023/1/1 ~ 8/31)

順位	書名／著者名、出版社、出版年	請求記号
1位	くれよんのくろくん／なかやみわさく・え、童心社、2001	726.6/NA
1位	へんしんトンネル／あきやまただし作・絵、金の星社、2002	726.6/AK
1位	やさいのがっこう キャベツくんおはなになる?／なかやみわさく、白泉社、2019	726.6/NA
4位	そらめくんのベッド／なかやみわさく・え、福音館書店、1999	726.6/NA
4位	汝、星のごとく／凧良ゆう、講談社、2022	913.6/NA
4位	おおきくなるっていうことは／中川ひろたか文 村上康成絵、童心社、1999	726.6/MU

～請求番号を載せましたので、興味のある方は是非お読みください。～

グループ学習室Sophiaを利用して

モチベーション行動科学部 島内ゼミ3年

山本 朱音・大平 優花・久保田雛子・
佐藤 大雅・的場 莉那

ゼミで利用するまでは、この「Sophia」という場所を知りませんでした。Sophiaは「知る人ぞ知る、秘密の集中スペース」だと思います。これまでは、例えば、みんなで話し合いながら何か作業をしたい時には、空き教室を探したり、また、空き教室があっても、他の学生がいて話しづらかったりする経験がありました。しかし、Sophiaは、図書館の隣なので、本を借りて、手続きをして、すぐにそのまま作業や話し合いをすることができたり、また、事前に予約することができるので、その時間は優先的に使

用することができ
ます。また、テー
ブルごとに仕切り
があるため、集中
でき、友人や先生
の声も聞こえやす
く、教室よりも話
しやすいつ感じて
います。空調も効
いているので涼し
くてゆっくりで



ゼミ授業／グループ学習室 Sophia にて

き、とても過ごしやすいつ快適な空間です。存在を知らない未来大生も多いと思います。素敵な場所なのでもっと認知度が上がると良いなと思います。ぜひ、みなさんも利用してみてください！

📖 図書館からのお知らせ

▶ ボローニャ世界の絵本展「世界の食べ物絵本」

日時：12月4日(月)～12月22日(金)

図書館開館時間内(最終日は12:00まで)

ボローニャ世界の絵本展を今年も開催いたします。展示している世界の絵本は、イタリアのボローニャ市から友好都市である板橋区に寄贈され、いたばしボローニャ絵本館に所蔵されているものです。今年は食べ物が登場する絵本を展示します。世界各国から集まった絵本をぜひ手にとってご覧ください。

▶ 絵本作家・宮西達也さん講演会 「ニャーゴの優しさ・ティラノの思いやり」

日時：12月20日(水) 13:10～14:50

場所：東京未来大学

(詳細はポスターにて掲示します)

『にゃーご』『おとうさんはウルトラマン』『おまえうまそうだな』など、数々の人気絵本を生み出してきた宮西達也さんの講演会を行います。絵本のことや子育てのことなど、たくさん語ってくださいます。皆さま、ぜひご参加ください。



『おまえ うまそうだな』
(宮西達也・作
ポプラ社、2003)

編集後記

図書館の閉館時間が、2023年4月よりコロナ以前の20時に戻りました。また、新入生への利用ガイダンスが、各学部・専攻・学科で行われ、第3の場所としての図書館の機能が回復されつつあります。皆さん、ぜひ図書館に足を運んで、充実した学生生活にお役立てください。発行にあたり、ご協力をいただきました皆様に御礼申し上げます。(F & Y)